

福知山市自治基本条例推進委員会（第1回）概要報告

〔日 時〕平成30年11月29日（木）15:00～16:45

〔場 所〕市民交流プラザ 会議室4-2

〔出席者〕委員…9人、事務局…6人

■開会

■委員長・副委員長選出

- ・ 委員長に富野委員、副委員長に足立委員が就任

■条例制定の目的及び委員会の主旨確認

■自治基本条例施行後の主な動き

■今後の進め方

① 福知山市自治基本条例に基づく取組状況調査シートについて

- ・ 今回、提案しているのはあくまで、行政の仕事が条例どおり行われているか検証するための資料。
- ・ 行政のチェックが主となっているが、他にも市民の参画を確認するためにも、市民ボランティアを募集しているイベント等調査して欲しい。
- ・ 条例の市民、行政への浸透度が一番気になる。地域においても役員の成り手も少ない。条例を根付かせることが大切だと考えている。調査についてもその点を考えていきたい。

② 今後の委員会のイメージ

- ・ 市民協働をうたいながらも、市が主体という意識が強く、市民は市が実施できているか評価する立場という運営の委員会も多いが、そうではない。行政も市民もすすめられているかを検証していかなければならない。しかしながら、全てをチェックすることは大変なので、少しずつ絞りながら実施しているかを検証していきたい。
- ・ 次回は委員のみなさんの意見を予めいただき、集約したものに基づいて、話し合いをする。
- ・ その次は、市が30年度の条例に基づく取組状況のまとめを報告し、これを検証する。調査に時間を要するので、夏から秋に報告してもらうことになる。
- ・ 3回目に、委員会として行政や市民への投げかけていく事項の検討が必要になると考える。
- ・ 市の実施状況をまとめることに時間を要するのは分かるが、それ以外にも委員会として条例を推進する方法はないかも検討が必要。

③ その他（市民啓発について）

- ・ 市民への啓発については、昨年度20回ほど各地域公民館などで講座という形で実施したが、これで浸透しているとは思っておらず、課題であると考えている。
- ・ 行政依存型の発想というのは昔からあるが、これからの時代に沿わない。

- ・ 推進のためにも行政と地域住民が話し合える場所というものが必要だと今、感じている。
- ・ 市民と課題を共有し、見える化することが大事だと考える。
- ・ 条例の認知度は低いようであるので、まずは市民に広げていくことが第一だと思うが苦慮する点と予想される。
- ・ 市民憲章も自治基本条例も住民の手による、よりよいまちづくりが目的であることは同じ。（自治基本条例の前文は市民憲章。）
 どれほど浸透しているかと考えているときに、浸透の段階は①あることを知ってもらう。②中身を理解してもらう。③何か実践してもらう。の3段階であり、これを永遠に反復しなければならない。
- ・ 市民懇談会など毎年継続して実践していくことが大切と考える。まずは、まちづくりに深く関わっている人・団体から広めていくのが大切だと思う。
- ・ 福知山市は合計特殊出生率が高く、人口減もおさえられ、活気が少しずつ戻ってきた今は自治基本条例を推進するチャンスであると考えている。

■まとめ

- ・ 委員長及び副委員長の就任
 富野委員長、足立副委員長
- ・ 委員会の主旨、目的の共通確認
- ・ 今後の進め方のイメージ形成

- ① 自治基本条例推進にあたっての重点的に取り組む事項への提案と検討
- ② 市の条例に基づく施策取組状況の報告に基づく検証（平成30年度分から）
- ③ 市及び市民への提案内容の検討